

学習目標

- ★情報の意味と特質を理解させる。
- ★情報には価値があり、その取り扱いには注意が必要であることを理解させる。
- ★「情報」の学習内容の必要性を感じさせ、学習意欲を高める。

授業の流れ

- 1 情報との関わり**
実習1を通して、自分の生活と情報との関わりについて見つめさせる。
- 2 情報と私たちの生活**
情報は生活に密着しており、判断・娯楽・学習など、さまざまな場面で利用していることを理解させる。
- 3 情報の価値と特質**
情報には価値があり、ものとは違う特質がある。取り扱いのルールがものとは異なることを伝える。

指導上の留意点

- ①「情報」が私たちの生活と深く結びついていることを理解させる。「情報」の学びが日常生活や将来の自分に役立つものだという感覚を与えたい。
- ②実習1ではテレビゲームやマンガ、雑誌なども例に挙げている。これらは、娯楽や教養を得るために情報を消費する例である。ものとの対比も含めて、情報と接する時間が長いことを実感させたい。
- ③情報技術の発達は、人の関係や社会の制度などを変えてきた。それは今後も変わりはない。学習を通して人・社会・技術の関わりの中でいかに賢く生きていけばよいのか、その知識とスキルを身につけることの必要性を理解させたい。
- ④大量の情報が消費される情報社会では情報が大きな経済的価値をもつ。ものの消費から情報の消費へ進んでいる現在進行形の社会の姿を見せたい。

第1節 情報とメディアの特徴

■情報社会における情報の役割について理解しよう。
■メディアの特性を理解しよう。

1 情報の特徴

情報社会
わたしたちは、毎日多くの情報に接している。新聞や雑誌、テレビなどを通してさまざまなことを知ることができる。インターネットを使って自分に必要な情報を探し出すこともできる。情報を手に入れるだけでなく、世界に向けて情報を発信することもできる。

1 情報 はわたしたちの生活にとって欠かせないものである。天気予報は服装や持ち物を決めるために役立つ。はじめて訪れる場所で行動するときには地図情報なども役立つ。このように、わたしたちは情報を行動や意思決定の材料として利用している。そして、パソコンや携帯電話(1)を(2)情報通信機器(3)を活用して、いつでもどこでも情報にアクセスできる社会で生活している。情報社会とは、情報やそれを支える情報技術が生活に欠かすことができないほど大きな影響力をもっている社会である。

2 情報通信機器
Information and communication devices: 情報をやり取りするために使う機器のこと。インターネットに接続されたコンピュータや携帯電話などがよく使われる。

4 情報の特質

“もの”には形があるが、“情報”には形がない(1)。そのため、ものと情報では特性や取り扱いのルールが違うことがある。たとえば、ものは盗まなければならないが、情報はオリジナルを残したままコピーをつくるので、盗まれても気づかないことがある。しかし、ものと違いオリジナルが残るからといって、知的活動で生み出された知的財産を盗んだり、無断で複製して使ったりすることは許されない。

書店で小説を購入するときのことを考えてみよう。わたしたちは紙の家というものを購入するためにお金を払っているのではない。そこに印刷されている小説の内容という情報に価値を認めて購入しているのである。

情報の価値
たとえばある地方の天気予報は、その場所に滞在する人にとっては重要な情報であるが、滞りのない人にとっては単なるデータでしかない。情報の価値は受け取る人によって左右される。

わたしたちのまわりにあふれる情報

実践1 あなたは1日に平均して次のことどのくらい時間を使っていますか。学校に来る平日について考えてみよう。(単位:分)

行動	時間(分/日あたり)
■ テレビやDVDを見る。	
■ 携帯電話を使う。	
■ 音楽を聞く。	
■ テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ。	
■ パソコンを使う。	
■ 漫画や雑誌を読む。	
■ 本や新聞を読む。	

Keyword

- 1 情報**
情報は人にとって意味や価値のあるデータのことである。ある人にとっては有益な情報でも、他者には単なるデータでしかないこともある。例えば、明日の北海道の天気予報は、北海道に住む人や旅行へ行く人には価値ある情報であるが、ほかの地域に住んでいる人には単なるデータでしかない。
人は情報により意思決定を行う。判断の前提となる情報に誤りがあれば判断ミスにつながるため、いかに正確な情報を手に入れるかが重要になる。
また、情報を手に入れる早さも大切である。歴史をみると、武田信玄は領地内に狼煙のネットワークをつくり、第二次世界大戦では敵の位置を早く知るために各国は高性能なレーダーの開発を急いだ。危急存亡のときではなくても、その重要性に変わりはない。
- 2 情報通信機器**
情報通信機器とは情報をやり取りするための機器である。電話も立派な情報通信機器であるが、今や携帯電話が主流になり、さらに小型のパソコンともいえるスマートフォンにまで発達した。通信網の整備もあり、

いつでも・どこでも情報にアクセスできるユビキタスネットワークを実現する基盤が整いつつある。

- 3 情報社会**
情報社会をとらえるのに18~19世紀にかけて起こった工業化と比べるのもよい。工業化はものの大量生産を可能にした。それは大量消費を意味し、その後、都市化が進み、資本主義が発展した。
現在は「情報技術の発達による社会変化」の真っ只中にある。情報社会は私たちの生活をどのように変えていくのか。2010~11年にアラブ世界で発生した大規模反政府デモや抗議活動は「アラブの春」とよばれ、情報通信技術(FacebookなどのSNS)がこれらの運動を支えたといわれている。この授業を通して、未来を担う生徒たちがこれからの社会をどのように変えていきたいかを考える機会にしてもらいたい。ちなみに、英語では情報社会を“Information Society”ではなく、“Post-Industrial Society”という。
- 4 情報の特質**
同じものがいくつもつくれてしまうところが、ディ

導入

情報との関わりを実感し、その重要性を理解する
「衣食足りて礼節を知る」という故事成語がある。現代であれば、住も必要であろうから「衣食住」ということになる。私たちには当たり前でも、地球上にはこの三つが満足に得られない人々もいる。つまり、日本人ははるかに恵まれた環境に生きているといえる。
衣食住が足りるとは、具体的には“もの”があるということである。日本も昭和の高度成長期にはものを所有することで満足感を得るといった時代があった。しかし、今では“もの”ではないもの、例えば音楽とか映画とか、友だちと交わすメールとか、形のない“もの”が私たちの生活を豊かにしているように思える(本当にそうなのかは考えてみたいところである)。この実態のない“もの”とは何なのだろうか。
音楽をダウンロード購入して携帯型音楽プレーヤーで聴く。その音楽を聴くことで幸せになったり、癒されたりする。このような無形の“もの”の実態こそが“情報”である。そして、情報に私たちは価値を感じている。感じているからこそ、お金を払う。
情報を消費すること、これこそが情報社会を端的に表す一面である。

デジタル表現された情報(データ)の扱いを難しくしている。音楽にしてもデータをコピーすれば無限にコピーを作成できる。そのため、情報にはものとは違うルールが必要であり、これまで以上に著作権をはじめとする知的財産権への配慮が必要となる。

情報	もの
非物質的	物質的
まったく同じコピーがつくれる	厳密に同一のコピーをつくれぬ

デジタルなら
→情報はオリジナルを残したまま、盗むことが可能!

- 5 情報の価値**
コンビニエンスストアなどが電子マネーやポイントカードを積極的に導入する理由はどこにあるのか。手間やポイント還元による利益の目減りを考えても、企業や店舗は顧客の属性(年齢・性別・居住地域など)を求めている。それらを利用し、収益の向上や新規のビジネスにつなげている。このように、私たちは自分の情報を企業に渡すことで、さまざまなサービスを受けている。これらの情報をどのようにコントロールすべきかについては、第3章で考える機会を与えたい。